

# 理論編

# 1 学校と地域の連携の推進

## (1) 学校と地域の連携で何が変わるのか

### ① 子どもたちにとって期待される効果

#### 「生きる力」が育成されます

子どもたちの「生きる力」は、学校だけで育まれるものではなく、家庭における教育はもちろんのこと、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものです。地域社会とのつながりや信頼できる大人との多くの関わりを通して、子どもたちは心豊かにたくましく成長していきます。

#### 地域への愛着が芽生えます

信頼できる大人と多くの関わりを持ち、愛情を注がれることにより、自己肯定感や他人を思いやる心など、豊かな心が育まれます。

そして、地域の人々に支えられて学んでいくことや、地域の文化や自然などを学ぶことを通して、地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が育まれます。

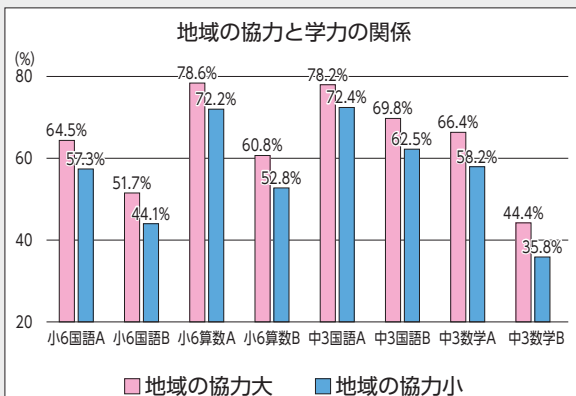


#### 学力向上の基盤をつくります

学校に多様な人々が関わっていくことで、多くの大人の専門性や地域の力を生かした教育活動等が実施され、学校での学びがより豊かに、広がりをもったものとなり、子どもたちの学びが充実します。

これにより、子どもたちの学ぶ意欲や意識が高まるなど、学力向上の基盤づくりにつながっていきます。

全国学力状況調査を基にした解析結果によると、学校支援活動が活発な学校ほど、子どもたちの学力が高くなっているという結果が出ています。



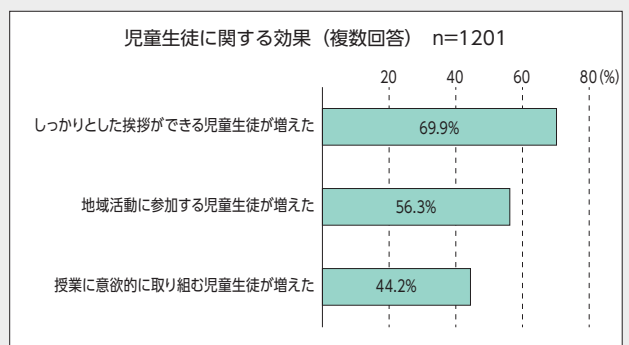
国立大学法人お茶の水女子大学調査 (平成 26 年)

#### 社会性が育まれます

連携活動を通して多くの地域の大人と関わることで、しっかりとした挨拶ができるようになったり、自分の意見をはっきり言えるようになったりするなど、子どもたちのコミュニケーション能力が育まれます。

また、地域でのボランティア活動などは、「地域における自分」を考えるきっかけにもなり、社会の一員としての自覚につながっていきます。

そして、地域の人たちとのふれあいを通して、地域に関心を持ち、地域活動に参加するようになる子どもたちも多く見られ、連携活動が児童・生徒の社会性を育てていきます。



栃木県総合教育センター調査 (平成 27 年)

②教職員にとって期待される効果



地域への理解が深まります

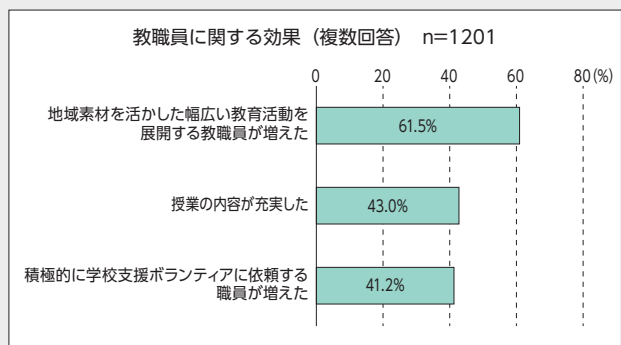
連携活動を通して、地域にどのような人的・物的な教育資源があるのかを知ることができるとともに、地域の人々が、学校の応援団であることを実感することができます。

そして、地域の人々との関わりで得られる多様な経験を通じ、教員としての意欲が高まり、豊かな指導力の発揮につながります。

授業の内容が充実します

地域の人々の専門性や地域ならではの教育資源を生かすことで、授業内容の充実を図ることができます。また、子どもたちに幅広い教育活動を展開することは、教育課程の質の向上の実現につながっていきます。

地域連携教員の設置により、積極的にボランティアに協力を依頼して、授業内容の充実を図る職員が増えている状況も見られます。



栃木県総合教育センター調査 (平成 27 年)

③地域や保護者にとって期待される効果



地域コミュニティが活性化します

社会状況の様々な変化に伴い、地域の人間関係の希薄化が指摘されています。それにより、地域ぐるみで取り組む祭りなどの地域活動の減少が見られ、地域住民同士が交流する機会の創出が課題となっています。

地域の活性化には地域の大人同士が集まるきっかけづくりが重要であり、地域の大人が地域に関心を持ってもらえるような取組が求められています。

学校支援のために集まった地域の大人が、それをきっかけとして地域活動を始めていくという例が見られます。このような、学校支援をきっかけとした地域活動の活性化は、活力ある地域コミュニティづくりにつながっていきます。

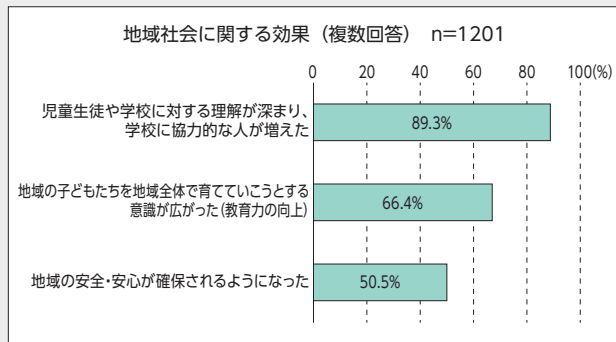
生涯学習活動が充実します

地域住民や保護者が、これまでの学びの中で身につけた様々な知識や技術、経験等を、学校支援活動の中で生かしていくことは、新たな自己実現につながっていきます。

また、学校支援を通して地域の大人と接することにより、新たな学びへと発展することも期待できます。学校支援は学校のためだけでなく自分たちの学びの仲間づくりにもつながっていきます。

地域の教育力が向上します

多くの大人たちが、学校支援を通して子どもたちとふれあうことにより、地域の子どもたちを地域全体で育てていこうとする意識が高まり、地域の教育力の向上につながっていきます。



栃木県総合教育センター調査 (平成 27 年)

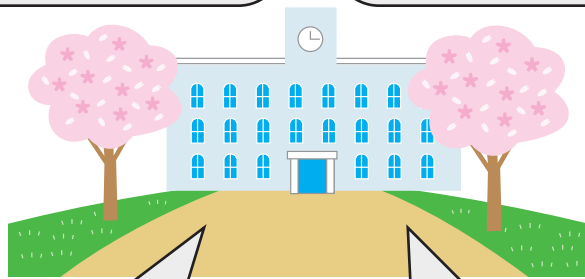
④学校にとって期待される効果

教育課題が解決されます

いじめや不登校、生活習慣の乱れ、コミュニケーション能力の低下等をはじめとする、様々な教育課題が複雑化し、その解決の困難化が指摘されている中、学校と地域が連携してそれらの課題を解決していく必要があります。学校だけでこれらの課題の全てに対処していくのではなく、地域住民だからできること、地域住民にしかできないことを、地域と役割分担しながら解決していくことができます。

地域との信頼関係が構築されます

日頃から学校と地域が連携して様々な教育活動を推進していくことで、学校と地域の良好な信頼関係が構築されていきます。そして、学校と地域が相互に理解を深め、共に成功体験を重ねながら信頼関係を構築していくことで、地域の人々が学校の応援団になってくれます。この信頼関係の基礎が構築されてはじめて、地域の人々の学校運営への「参画」が効果的なものとなり、学校と地域の「協働」関係へと発展していきます。



地域との協働につながります

地域との連携活動が進んでいくと、地域住民の学校支援活動が、参加から参画へ、協力から協働へと高まっていきます。

そして、地域とともにどのような子どもたちを育てていくのか、何を目指していくのかという目標やビジョンを共有して、地域と一体となって子どもを育てていく、「地域とともにある学校」づくりにつながっていきます。

学校と地域の協働においては、教育や子どもたちの成長に対する責任を分かち合い、学校がやるべきこと、地域がやるべきこととの役割を認識して、共有した目標に向かって、対等な立場の下で共に活動することで、社会総掛かりでの教育が実現します。

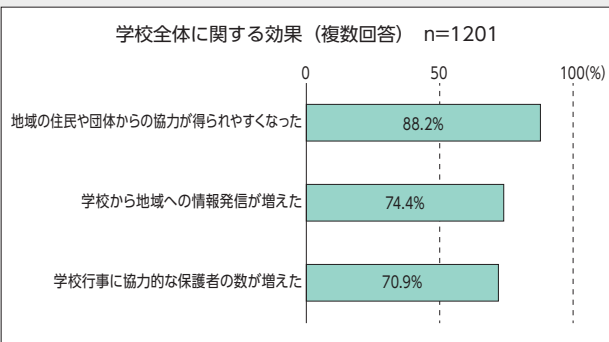
教育課程の質が向上します

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが求められています。そのためには、地域の人的・物的資源を積極的に活用して、地域との連携活動を取り入れるなど、各学校が指導要領等に基づき編成した教育課程を、より効果的に実施していくことが求められます。

そして、実施状況を保護者や地域の人々を巻き込んで、評価し改善していく「カリキュラム・マネジメント」を確立していくことで、子どもたちの教育活動のさらなる充実を図ることができます。

また、子どもたちが「どのように学ぶか」に着目して、学びの質を高めるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指したいいわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点から教育活動を進めていく必要があります。その実現のためには、地域の人々との対話や地域資源の活用等が不可欠であり、連携活動による学びの質の向上を目指していく必要があります。

実践編P33



栃木県総合教育センター調査 (平成 27 年)

## (2) 学校と地域の目指すべき連携・協働の姿

平成27年12月21日に中央教育審議会から出された「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」(以下、「協働答申」と記す)では、これからの学校と地域の目指す連携・協働の姿として、次の3つの視点を示しています。

### 地域とともにある学校への転換

学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通じて、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し、学校の教育方針の決定や教育活動の実践に、地域のニーズを的確かつ機動的に反映させるとともに、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことが求められています。



### 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築

学校と地域が連携・協働するだけでなく、子どもの育ちを軸に据えながら、地域社会にある様々な機関や団体等がつながり、住民自らが学習することで、大人同士のきずな絆や学びの深まり、ます。また、学校との協働活動に参画する住民一人一人が学び合う場を持って、子どもの教育や地域の課題解決に関して共に学び続けていくことは、生涯学習社会の実現のためにも重要です。



### 学校を核とした地域づくりの推進

地方創生の観点からも、学校という場を核とした連携・協働の取組を通じて、子どもたちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図ることが重要となっています。



これらの3つの視点を踏まえながら、各校における連携活動を企画し推進していくことが求められています。



### (3) 地域連携の視点

#### 地域連携の4つの視点

地域との連携活動を行う場合、学校の立場からはどのような視点があるのでしょうか。それぞれの連携活動がどのような意味を持っているのか。また、学校目標や教科目標とどのように関連していくのかを捉えながら、連携活動を企画・実施していくことが重要です。

図1.1は地域連携を4つの視点から示したものです。各学校の教育目標やねらい、子どもの発達の段階等を踏まえ、工夫して連携活動を取り入れていきましょう。

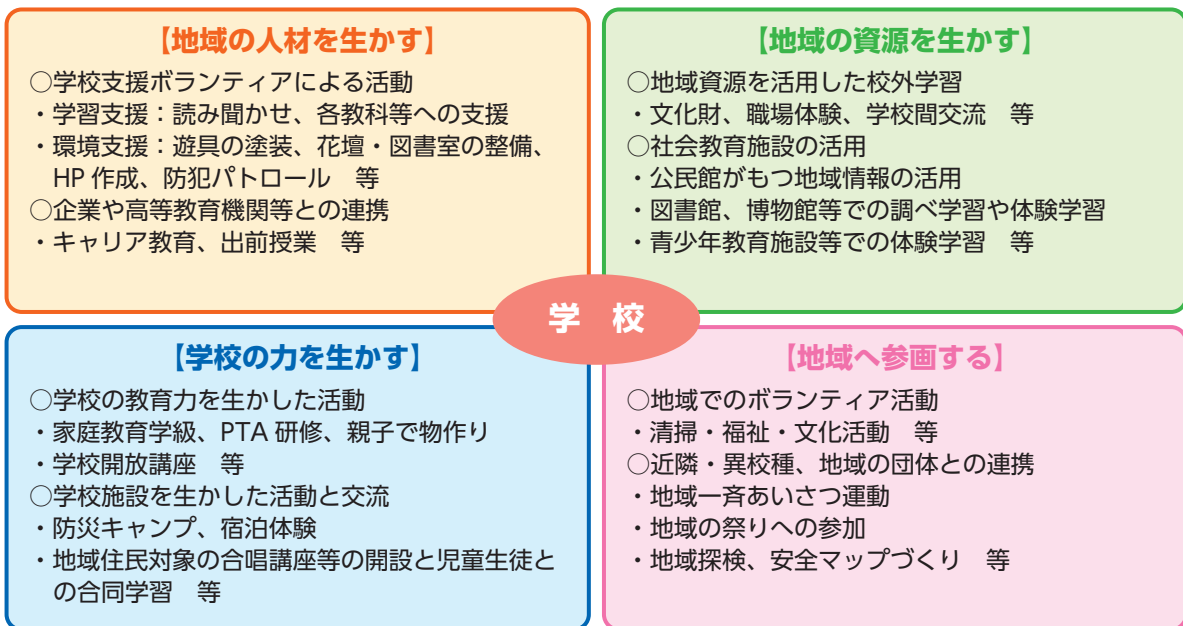


図1.1 地域連携の4つの視点

この4つの視点から、各学校の取組を整理すると、視点によって偏りが無いかどうかを確認することもできます。学校の教育目標を達成するために、足りない活動の視点がないかどうか、そして、気付いていなかった視点がないかどうか、検討し適切な活動を取り入れていくことが大切です。ただし、この4つの視点は連携活動に見られる場面を整理したものであり、学校の状況等を踏まえ、必ずしも全てに取り組みなければならないというものではありません。

これらの視点は、学校の教育目標とも深く関わってくるものでもあり、管理職の学校運営のマネジメントにも深く関わっているものです。地域連携教員が中心となって、「何をどこまで行っていくのか」を、管理職とともに地域側の意見も取り入れながら決めていくことが求められます。

(4) 地域概念と連携活動の捉え方

① 発達の段階による連携活動の目安

地域との連携活動を企画する際に、何をどこまで実施すればよいのか、地域をどう捉えればよいのか迷うことがあると思います。

連携活動はあくまで手段であり、その目的は子どもたちへの教育活動の充実にあります。したがって、連携活動の目的をきちんと捉えて企画することが大切です。その際、求められる連携活動の内容は、発達の段階によって必然的に違ったものになるため、その点を留意することが重要です。

まず、小学生段階は学校支援ボランティア等の地域の人との交流を通して、地域の人々の顔を知る、地域の人との関わりを学ぶことが連携の主な目標となります。そして、中学生段階では、ボランティア活動等を通して地域を知り、地域の役に立つ体験をすることで、地域の中の自分の役割を学ぶことが主な目標となるでしょう。さらに、高校生段階では、小・中学校の連携活動の経験を基盤として、様々な学習で学んだ成果を生かしながら、地域課題の解決やキャリア教育等の視点から、課題意識を持って地域の方々と「協働」する視点での活動が目標となっていきます。

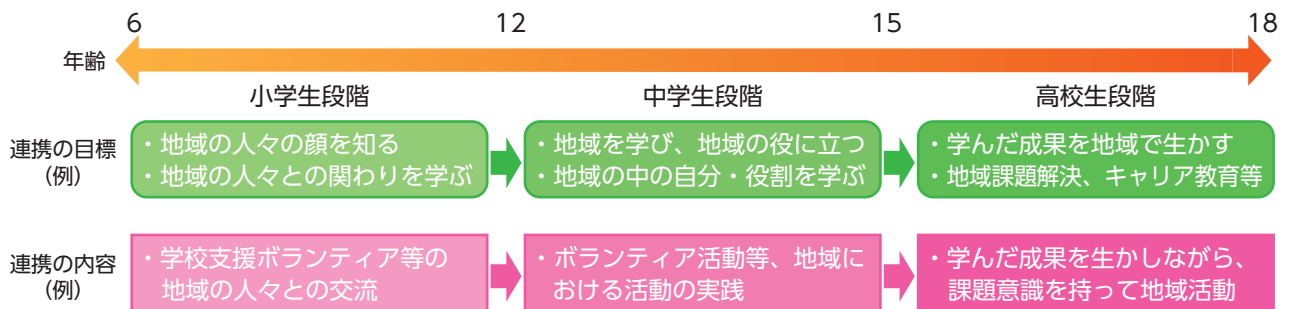


図 1.2 発達の段階による連携の目標や内容の捉え方 (目安)

図 1.2 に示すように、発達段階ごとに地域との連携活動を積み重ねることが、子どもたちの生きる力の基盤をつくっていくことにつながります。各学校が発達の段階を踏まえながら、目標を明確にした上で連携活動の内容を考えていくことが重要です。

② 発達の段階による「地域」の捉え方

各発達の段階における連携活動の目標から考えると、小学生段階では地域の人々との交流として、学校支援ボランティア等の地域住民と接する機会が柱となることから、「地域住民」や「PTA」「自治会」等の学校周辺のエリアが「地域」となります。また、中学生段階ではボランティア活動等で生徒が地域に出て行く活動が多くなることから、「商店会」「公民館」「関係団体」等の近隣の地域以外も「地域」として捉えていく必要があります。

一方、高校生段階では、生徒の課題意識に応じて、「行政」や「企業」「高等教育機関」等、広く連携先を求めていく必要があることから、「地域」の概念はさらに広域になり、場合によっては市町域・県域と広く捉えていく必要があります。図 1.3 に発達の段階による連携先と「地域」の捉え方を図示します。

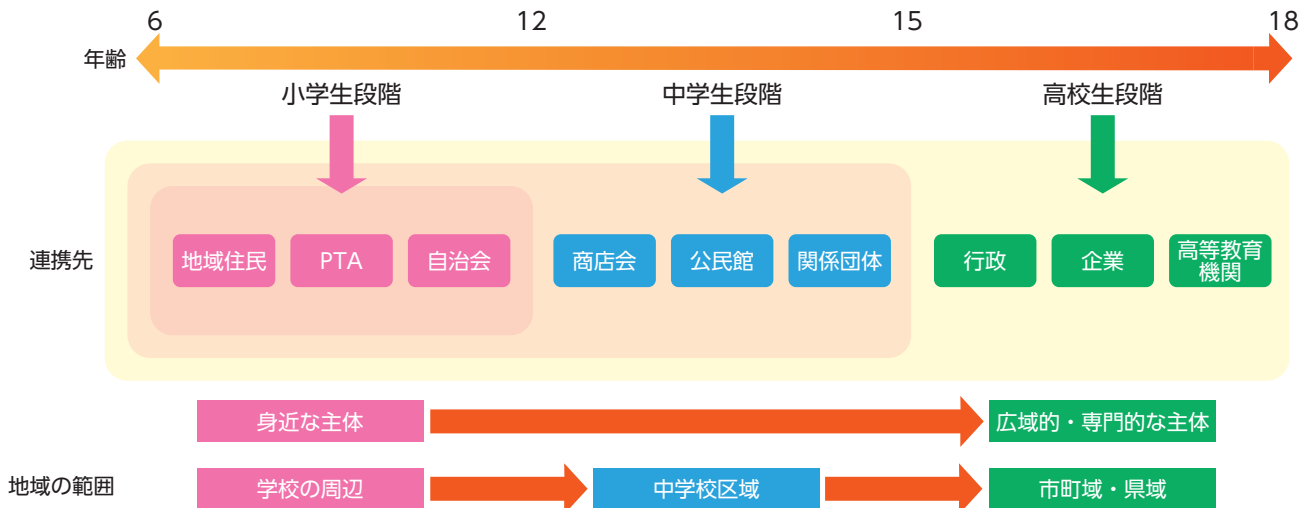


図 1.3 発達の段階による連絡先と地域の捉え方 (目安)

### ③ 発達の段階にみる取組事例

#### ・ 小学校

小学生段階では、連携の目標が「地域の人を知る」「地域の人との関わりを学ぶ」ということから、学校支援ボランティアによる「理科」「社会科」「体育科」「家庭科」「生活科」「総合的な学習の時間」等の教科や領域における学習支援や、「読み聞かせ」「クラブ活動支援」「図書整備」等の学習活動や環境整備を通じた交流活動が行われています。

これらの活動を推進していくためには、地域住民の協力を得ていく必要があることから、学校支援ボランティアの円滑な活動を進めるために、学校関係者による「学校支援地域本部」「学校支援協議会」「地域連携推進本部」等を設置しているところがあります。さらに、地域が主体となって「地域人材活用学校支援センター」「生涯学習推進協議会」等を設置し、学校支援の体制を整えている地域もあります。



#### ・ 中学校

中学生段階では、連携の目標が「地域を学び、地域の役に立つ」「地域の中の自分・役割を学ぶ」ということから、「清掃活動」「地域行事への参加」「イベント補助」「施設訪問」「あいさつ運動」「近隣小学校との交流」等のボランティア活動を中心に連携活動が行われています。

これらの活動を推進していくために、学校がボランティア活動を企画して、生徒や保護者に声を掛けるものや、近隣企業とボランティア活動を企画したり、行政が企画する「ボランティア事業」や「公民館事業」と連携して活動の機会を作ったりしている学校もあります。





・ 高等学校

高校生段階では、連携の目標が「学んだ成果を生かす」「地域課題解決、キャリア教育等」ということから、各校の特色に併せた連携活動が実施されています。

普通科、総合学科では、総合的な学習の時間等において、地域の企業等への体験学習やインターンシップ等を実施し、自らの職業観の形成等を育む取組等が行われています。また、域内中学校への部活の出前指導や交流活動等、地域を広く捉えた活動が展開されています。

一方、専門学科においては地元の自治体と連携して地域の食材を利用した商品開発や販売等を行ったり、災害復興や環境保全活動、福祉機器の修理等の専門的な知識や技術を生かした活動が行われたりしています。



・ 特別支援学校

特別支援学校においては、子どもたちの教育活動の充実や社会的な自立を目指すとともに、地域住民等に学校の教育活動について理解を深めてもらうという観点からも、地域との連携活動を実施しています。そして、公民館との連携による地域活動への参加や、近隣の学校との交流活動等、多様な連携活動が行われています。

さらに、学校においてボランティア養成講座等を実施し、地域住民等に特別支援学校に関心を持ってもらうとともに、学校支援ボランティアとして活動してもらうための取組を進めている学校もあります。

